



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



歯科病院・洗足校舎のさらなる整備に向けて

歯学部長 宮崎 隆

歯学部関係者にはご存じのように、現在、学校法人の事業計画として旗の台地区(Cサイト)の再整備計画を進めています。医歯薬学部の教育施設の充実、関連研究組織のセンター化に加えて、将来は洗足校舎と歯科病院を旗の台地区に移転し、大学病院と有機的に連携した歯科医療の提供を進める計画です。すでに、教育施設や研究施設に加えて、歯科医療センターの基本的な構想図面案がまとめられ、歯学部教授会で紹介され、広く意見の収集を始めています。しかし、Cサイト計画の完成には相当な年月を要するため、歯学部・歯科病院においては、現在の洗足地区で、教育・診療の歩みをとどめることなく最大限の努力をしていくことが必要です。



歯科病院は昭和52年に開院しました。地上6階、地下2階建てで、教育病院として6階には臨床講堂があります。開院当初は1日に最大500名の外来患者を想定していたのですが、年々患者が増大し、現在では平均して750名、多い日には1,000名近い患者が来院します。以前は4年生から6年生まで3学年の学生が歯科病院(洗足校舎)で臨床教育を受けていました。しかし、平成18年度からの卒業研修制度の必修化に伴いほぼ1学年分の研修医が増えることになり、歯科病院が手狭になることが予測されたため、カリキュラムを変えるとともに、旗の台校舎の実習室を整備して、平成16年からは4年生まで旗の台校舎で教育を受けています。

歯科病院の本体(1号棟)に加えて、現在は教務課、食堂、会議室、研究室などが入っている2号棟と、図書室、ロッカー室、研究室に使用している4号棟があります。以前は環七の中原街道よりにあった3号棟(研究棟)を使用していましたが、歯科病院から離れており処分しました。歯科病院には平成16年以降、新しい診療科を開設し、事業計画に基づいて、順次、外装・内装や設備を整備してきました。しかし、スペース不足は否めず、患者に不便を強いていますし、カルテや模型等の保管にも苦慮している現状です。また、臨床実習と臨床研修の充実に関しても教育・研修スペースのさらなる整備が求められています。

このたび、学校法人の事業計画に基づき、洗足校舎の校地に隣接した企業の土地を取得することができました。また、現在の4号棟は賃貸物件でしたが、こちらも土地・建物を学校法人が取得することができました。歯科病院が開院して以来、隣接地を取得できたのは初めてです。これにより、環七から洗足駅前に向かうメインの道路に校地が面することになり、スペースだけでなく環境も格段に改善します。新取得物件は、学生の教育環境と病院機能の改善のために有効活用する予定です。歯学部・歯科病院の評価を高めるために、関係者のご理解とご支援を宜しくお願いいたします。



大学院歯学研究科説明会のご案内

歯学部研究科運営委員会委員長 佐藤裕二

7月5日の夕刻、説明会が開催されました。集まったのは研修医6名と6年生25名ほどでした。学生はきちんとスーツで来ていました。ワクワクした大学院生活を過ごし、研究マインドを持った良き歯科医師になることを願っていることを熱く伝えました。来年度のマッチングも踏まえて、学生達も真剣に聞き入っていました。全体説明の後、8教室からの教室紹介がありました。

まずは秋季入学の試験が9月3日に行われます。説明会は今後、9月6日の18:30、11月22日の18:30、12月16日の16:00に歯科病院臨床講堂で開催予定です。大学院入試の詳細については、昭和大学ホームページ > 学部・大学院 > 大学院歯学研究科 > 入試情報をご覧ください。

日程	秋入学	春入学 I	春入学 II
願書締切	8/12	11/28	2/10
試験	9/3	12/10	2/18
合格発表	9/22	12/22	2/29
入学式	10/1	4/7	4/7

天津医科大学を訪問しました

歯学部長 宮崎 隆

中国の天津医科大学口腔医学院(歯学部)と本歯学部は、平成16年に交流プログラムを締結し、教育職員、学生レベルの実質的な交流を進めてきました。これまで、選択実習生として本学から7名の学生を受け入れていただきました。このたび、久しぶりに天津医科大学を訪問し、郝(ホウ)学長から名誉教授の称号を拝受する機会を得ました。



オリンピックで北京空港をはじめ、インフラの整備が進み、北京から天津まではこれまで高速道路で2時間かかっていましたが、新幹線で30分(最高時速350km)でした。天津市は北京市、上海市と並ぶ特区であり、人口は1,400万人で、高層ビルの建築ラッシュで発展の勢いを感じました。

天津医科大学は今年が創設60周年にあたり、丁度6月15日に大規模な式典を開催したばかりで、キャンパス内はまだ祝賀ムードに包まれていました。天津医科大学は医学・医療系の総合大学であり、医学部、歯学部、薬学部、看護学部のほかに、臨床検査技師、診療放射線技師、視能訓練士などの学部、さらに医学英語の学部など18学部があります。附属病院は本学のような直轄の附属病院が7つですが、その他に非直轄の附属病院が13、教育病院が43あります。興味深いのは、留学生の医学教育をしている International Medical School で、15年前に20名くらいの受け入れで始まったのが、今では世界60国から1,400名を受け入れて、学部レベル(5年制)と大学院レベルの教育を全て英語でしています。特筆すべきは、この学部の建物内にある模擬病院で、ナースステーションから、救急治療、手術室、ICU、一般病棟、産科などに患者シミュレーターが完備して、学生のスキルズラボとOSCEに活用していました。

口腔医学院(歯学部・歯科病院)はメインのキャンパスの東南の角に位置している5階建ての建物です。中国は大学や病院も全て等級分けがされて、予算も等級に応じて配分されるようですが、口腔医学院は Class3 GradeA で最も高い等級に位置付けられています。従来、中国は医学部と歯学部は5年制(学士)でしたが、天津医科大学では2002年から7年制(学士・修士一体)も導入しました。現在歯学部は7年制を30名、5年制を60名教育しています。学費は5年制のほうが7年制の4倍ほど高いようです。このほか

に、修士・博士の大学院があり、35名が在籍しています。中国は医学・歯学に限らず学歴・資格社会になっていて、5年制を卒業して就職してからも、さらに等級の上の病院に就職するためには、再度大学院に進学するケースも多いとのこと。

天津医科大学は本学以外にも世界中の主要な大学と交流プログラムを締結して、国際的な活動も活発にしています。本歯学部においても引き続き、教育職員と学生の両方で交流を進めていく所存です。

南カリフォルニア大学で選択実習を体験しました

D6 杉浦美穂

入学当初から憧れていた南カリフォルニア大学(USC)への留学が、ついに選択実習の期間を利用して実現しました。滞在中、診療前の Pre-session の見学、授業への参加、また様々な科での診療見学をさせていただきました。

アメリカでは大学卒業後に歯学部へ4年間通いますが、3年時から実際に患者を受けもち、指導医のもと臨床の現場で治療します。昭和大学では診療見学やアシストがほとんどでしたが、USCの学生はまるで一人前のドクターのように堂々と診療を行っており、感銘を受けました。授業では次々と学生が挙手して質問をする姿にモチベーションの高さや熱心さを感じ、また知識の豊富さに驚かされました。

毎日英語に囲まれての実習は、実に刺激的で新鮮でした。USCのスタッフや学生は皆親切にしてください、恵まれた環境での実習体験でした。実習を通じ、学生の志の高さや学ぶ姿勢に触れ、自分を見つめ直す機会を得ることができました。歯科医という共通の目標を持ちながら、異文化環境で学ぶ学生と情報交換や意思疎通が出来たことは、私にとって大きな財産となりました。留学中に受けた感動や驚き、貴重な経験を忘れることなく、将来の糧にしたいと思います。最後にこのような機会を与えて下さった諸先生方に御礼申し上げます。ありがとうございました。



認定医・専門医などの取得

広報委員長 井上 富雄

日本補綴歯科学会指導医 取得

歯科補綴学講座 樋口大輔

第31回昭和歯学会総会開催される

高齢者歯科学講座 北川 昇

猛暑の中、7月2日に第31回昭和歯学会総会が開催されました。今回は特別講演1題、上條奨学賞受賞講演1題、一般講演23題の発表があり当番教室として歯科薬理学教室と当教室が担当させていただきました。



特別講演は香港大学歯科理工学講座のDr. Jukka Pekka Matinlinna 准教授による「What do we know about zirconia as a dental biomaterial today?」というタイトルで、基礎・臨床データを基にジルコニアに関する最近の研究成果についてご講演いただきました。本邦においてもジルコニアはインプラント補綴分野で話題の中心であり、大変興味深い内容でした。上條奨学賞受賞講演は、本学口腔生化学教室講師の山田 篤 先生が「遺伝子改変動物を用いた生体機能の解明」と題してご講演いただきました。特にTNF- α やCdc42に関する研究は、本学の基礎研究レベルの高さを垣間見る思いがしました。さらに、学位申請の研究内容の公示が一般化したことに伴い、一般講演では多くの大学院生や研究生による発表がありました。また、学部5年生の発表もあり、大変活発な質疑応答がなされ定刻を大幅に延長し、盛会裏に終了しました。

D2 臨床入門が実施されました

D2臨床入門実施責任者 樋口 大輔

今年度も6月22日から3回に渡りD2臨床入門(実習)が歯科病院において実施されました。本実習は歯科臨床を2年生という若い学年で体験することで、今後の授業、実習における理解を得やすいよう4年前に開始されました。今年度は節電カリキュラムにより急遽日程を変更し、従来の7月中旬までのところを7月1日に終了するよう期間を短縮したため、実習内容が例年と異なりました。

「ユニット操作と診療の体験」では、学生が交互に患者役、歯科医師役となり、実際外来に設置されている歯科ユニットを操作し口腔内の診察を体験しました。

「印象採得の経験」では初めて練和するアルジネート印象材に戸惑い、印象採得前に印象材が固まってしまう学生もおりましたが、失敗も大切な経験です。あらかじめ一人2回までは印象採得ができるよう準備を整えておりましたので、2回目には先生方の指導により立派な印象を採得することができました。

学生レポートを確認したところ、「歯科ユニットを初めて操作することで歯学部学生としての自覚が出てきた」、「初めての印象採得により将来歯科医師として活躍する自分の姿を想像した」、さらに「今後の歯科理工実習など材料を扱う実習に対する準備も出来た」、など学生達にも非常に有意義であったようです。

大変ご多忙の所、ご指導を頂きました各教室の先生方、また外来の使用にご配慮頂きました衛生士、看護師の方々に御礼申し上げます。ありがとうございました。

D5 学部連携病棟実習(I期)が実施されました

口腔衛生学講座 向井 美恵

昨年までトライアルで行われていました学部連携病棟実習が今年度から3期に分けて必修となり、その第I期が6月20日~24日に附属7病院の41病棟で実施されました。歯学部からは32名の臨床実習生(5年生)が参加しました。入院患者の担当医、病棟看護師、病棟薬剤師を始め多くの大学教職員のWSなどによる十分な準備のもとに行われた成果として、若干のスケジュールの変更はあったものの殆どのグループが円滑に実習を終えることができました。

歯学部関連では、4病院(大学病院、藤が丘・横浜市北部・烏山病院)の歯科室の全面的な協力に加え、歯科病院臨床科から多くの先生に指導教員、指導歯科医をお願いし、殆どの入院患者の歯科診察とそれに基づくケア計画の立案・実施などがなされました。1年次からの学部連携の積み上げはあるものの、異なる学部の学生で構成されたグループでの病棟実習のため、最初は戸惑いも見られましたが、金曜日の午後のまとめ・発表では患者の病態や治療の解析のみならず、退院後の生活や家族の関わり、長期的な種々のケアや管理など連携病棟実習でしか学べない内容も多かったとの感想が多く聞かれました。

学生にとっては、種々の疾患の治療のために入院中の患者に直接接して、その疾患や服薬等と口腔との関連や療養上の口腔衛生管理の全身に及ぼす影響などを他学部の学生と情報を共有しながら学ぶ経験を通して歯科医療の多様性と重要性を再確認した1週間であったと思われます。関連の教職員の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 8月 6日(土): 歯学部オープンキャンパス
- 8月27日(土): 歯学部オープンキャンパス
- 9月10日(土): 臨床研修歯科医師 採用試験
- 9月11日(日): 歯学部オープンキャンパス

第16回夏季スポーツ大会壮行会が開催されました

歯学部学生部長 上條 竜太郎

第16回夏季スポーツ大会壮行会が7月4日開催されました。5時から1号館7階で、医学部臨床感染症学二木教授が「スポーツ選手と感染症」についてご講演され、引き続き5時30分から1号館5階会議室で、壮行会が開催されました。薬学部荒川学生部長の開式宣言に続いて、片桐学長が訓辞を述べられ、小口理事長からは、スポーツ大会に向けての心構えのお話がありました。さらに、4学部を代表して山元薬学部長、瀧本父兄会副会長がそれぞれ挨拶をされました。医学部同窓会学内支部長である諸星教授(第一病理学)から、体連、文連それぞれ3クラブに支部奨励助成金が授与されました。選手宣誓は剣道部主将永田卓也君(P4)が「ベストを尽くし、勝利を目指す」ことを声高らかに宣し、グリークラブによる校歌斉唱をもって終了致しました。

懇親会ではまず、応援指導部による迫力あるエールが会場内に響き渡り、宮崎医学部学生部長の乾杯により会が始まりました。大会での健闘を誓う各クラブの学生の活気で会場内が満ちあふれる中、石野保健医療学部学生部長が閉会を宣し、閉会となりました。



学部連携地域医療実習を体験しました

D6 船登 映映

5月23日から6月3日までの2週間、学部連携地域医療実習に参加しました。この実習を希望した理由は、「地域に密着した医療について」や「各職種の役割・重要性を知り、チームでどのようにして連携をとっ



ているのか」を知りたかったからです。

毎日違う施設で実習させていただきました。今までは外来での歯科診療だけしか知らなかったのですが、訪問歯科診療の実際や各職種の役割・異なった視点で患者さんに接している事を体験することが出来ました。また、外来だけではなく訪問診療・訪問歯科診療・訪問薬局・訪問看護が多くの方に必要とされていることも知りました。最善の医療を提供できるようにチームで連携を取り、情報共有していることを知り、チームで協力することの重要性を学ぶことが出来ました。実際の現場を知ることが出来たのはとても

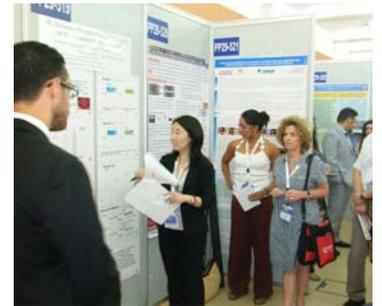
貴重な経験だったと思います。このような4学部連携という昭和大学ならではの实習に参加することが出来て本当に良かったと思います。今回の体験や気持ちを忘れないようにしたいと思いました。

このような機会を設けてくださった実習現場の鈴木央先生、向井美恵教授、中川量晴先生をはじめ多くの先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

第23回国際小児歯科学会で発表しました

小児成育歯科学講座 杉山 智美

6月15日から18日にギリシャ・アテネの国際小児歯科学会に参加しました。学会会場は Lykavittos Hill (頂上はアテネで最も標高が高い場所で、市街が一望できるようです)の近くにあり、静かで国際学会には最適な環境でした。



国際小児歯科学会是世界最大規模の小児歯科学会であり、2年に1度開催されています。当教室からは、井上美津子先生、浅里仁先生、大学院生の窪野美乃先生、私の4名が参加しました。

今回の学会では「う蝕」「咬合誘導」「有病児への対応」など子ども達の問題だけではなく、妊娠中の母体に対する歯科治療や出生前診断についてなど幅広い分野での発表があり大変勉強になりました。子どもと両親を取り巻く環境が近年大きく変化しており、よりよい診療をするには幅広い知識が必要であると痛感しました。

私達がギリシャを訪問した期間はデモやストがあり大変でしたが、貴重な経験をすることができました。今回学んだ多くのことを臨床で活かしていきたいと思います。

診療統計(平成23年6月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,708	719.5	694.6	732.0
入院患者	367	12.2	12.3	14.4

編集後記 小児成育歯科学講座 小田 訓子

今年は、かなりの節電対策の中ですが夏休みの賑わいは健在のようです。お忙しいところ原稿を執筆していただいた皆様には心より感謝申し上げます。